

令和5年度第1回宇治市文化芸術推進委員会議事録

日時 令和5年9月7日(木) 午後3時～午後4時45分

場所 宇治市役所8階 大会議室

出席者

宇治市文化芸術推進委員会

委員長 滋野 浩毅

職務代理 矢野友次郎

委員 岩井 亨

〃 小宮山 恭子

〃 塩見 啓子

〃 中谷 雅夫

〃 左 美幸

〃 福井 ひろ子

〃 吉水 利明

事務局

産業観光部部長 脇坂 英昭

産業観光部 文化スポーツ課長 岡部 均

〃 観光振興課長 木田 陽子

〃 文化スポーツ課 副課長兼文化係長 木内 小季

〃 〃 文化係 主任 桑原 大

〃 〃 文化係 再任用主任 西澤久美子 他1名

資料

・次第

・会議資料 資料1～資料4

会議内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事等

(1) 文化芸術振興基本計画における令和4年度の事業実施状況について

- ・事務局より「文化芸術振興基本計画における令和4年度の事業実施状況について」資料1説明。

(委員長)

文化芸術振興基本計画における令和4年度の事業実施状況について、意見・質問はあるか。

(委員)

ロビーコンサートは定員を40人に設定しているが、市役所に行けば観覧できると皆が期待している。参加者数の枠をもう少し広げてはどうか。

(事務局)

コロナ禍で出来なかったが、ロビーコンサートに限らず少しずつ広げていかなければならない。スペースの関係もあるが、少しでも多くの方に参加いただけるよう検討する。

(委員長)

ピアノの自動演奏は、昨年度から実施したのか。

(事務局)

以前にも実施していたことはある。コロナ禍でロビーコンサートが実施できていなかった中、ピアノを活用しようと、昨年度半ばから実施している。

(委員長)

最近、街角や駅にピアノがあって自由に演奏できるところがある。身近に親しめる機会として、私は良いと思っている。

(委員)

コロナ禍で環境が変わったが、コロナの何年も前から文化活動や文化団体の活動の中で、高齢化が大きな問題となっている。さらにコロナが高齢化に拍車をかけ、社会問題になっている。行政はどう考えているのか。

(事務局)

コロナは文化活動に限らず地域コミュニティをはじめ様々な影響があり、再開には力がある。抜けていかれる人もいる。様々な分野でどのようにして前の状態に戻していくか模索している。その中で、市民文化賞にユース賞を作り、若い方にも参

加していただく取組を進めている。若い方の活動機会を増やすことも一つの方法。現在、模索して色々考えて進めようとしているところである。

(委員)

コロナはいつか収束し、観客は戻ってくるが、演者やスタッフは確実に歳を取っている。高齢化という波は修正がきかない。行政からは実態把握へのアクションが何もない。実態把握して対応することを提案する。

(事務局)

若い方の活動発表の仕方は多様なので、活動の実態を把握することは難しい。文化センターの指定管理者がボランティアの育成に着手。文化芸術活動を支える力を支援している。若い方にも届いたら良いと思っている。

(委員長)

コロナにより3年間の断絶が起こっている。お祭りやまちのイベント、あちこちで感じる。委員からの提案を聞き、市民文化団体へのヒアリングを検討いただきたい。

(委員)

コロナ禍での活動促進として、インターネットの動画配信を始められたのは興味深い。ロビーコンサート動画を撮って配信してはどうか。意見が返ってくるようチャットで配信したら若い人も興味を持つ。市のホームページから気軽に観られる動画が良い。

(事務局)

YouTubeで、おうえんチャンネルを配信していて、多くの団体や個人が自分で制作された動画を公開できる仕組みになっている。投稿数も視聴回数も伸びている。今は広報の手法の一つになっていて、今後も重要と考えている。

(委員長)

新たに始めた事業として育てていけたらと思う。

(2) 令和5年度におけるその他の文化事業について

- ・事務局より「令和5年度におけるその他の文化事業について」資料2説明。

(委員長)

令和5年度におけるその他の文化事業について、意見・質問はあるか。

(委員)

つむぐみらい文化芸術活動支援事業補助金の一次募集が3件、二次募集が2件。本来なら沢山の応募があり、落とさないといけなくらい浸透していないといけない。3件、2件という件数について、市はどう思っているのか。

(事務局)

今年度の新規事業で広報が出遅れたが、ホームページ、LINE、市政だより、団体向け説明会で広報した。次年度以降、応募団体が増えればと考えている。

(委員)

広報してこの数、魅力がない。若い人が振り向かない、魅力のない市になりつつある。補助金が出ると大々的にアピールしたら、芸術や市民活動を活性化していく手段になる。来年度は、どうして魅力が足りないのか工夫していただきたい。

(委員)

芸術文化はすごく幅広い。行政はあれもこれもと広すぎる。宇治市としてこの地域に何が必要かをちゃんと考えてもらいたい。宇治市自体がぼやけている。観光のまちと言っているが、平等院、源氏物語ミュージアムで終わり。ポイントをしっかり持ち、枝を大きくする方が良い。何でもかんでも手をつけず、一本に絞った方が良い。宇治茶を知っている小学生が少ない。お茶葉も分からない。茶香服も宇治の文化なのに知らない。「茶づな」は、いつでも体験できるようにした方が良い。

(事務局)

選択と集中という面がある。ただ一方で「ここだけ」というのは行政では難しい。これまで一つは「源氏物語のまちづくり」を進めてきた。来年は大河ドラマ「光る君へ」をやるので、まずそこを大きくするが、それだけでなく、それぞれの地域での活動に目を向けていきたい。広げすぎてとの意見もあり悩ましいが、いただいた意見を参考にできればと考えている。

(委員)

宇治の文化の一番のベースをしっかりと把握したら良いと思う。自主的に活動している団体をほったらかしにしている。その都度どのようなものが必要なのか、要望は何か、把握して施策をうたなければならない。補助金も担当者が机上で考えているから、我々と感覚が違う。市民と行政に距離感が生じている。高齢者は今まで公民館活動を支えてきた。今どういう状況にあるのか、コロナでどうなったのか、そういうのを分析してほしい。ヒアリングしたら掴めると思う。それが、文化活動をしていく大きなベースで手法だと思うが、行政からは何も見えてこない。

(事務局)

団体や協会とのヒアリングの実施に向けて検討する。

(委員長)

つむぐみらい文化芸術活動支援事業補助金の件数が少なくてさみしい。事業終了後に報告会や交流会を予定しているのか。

(事務局)

交流会まで想定していなかった。実施報告結果を公表していきたいと考えている。5件はさみしいとのことだが、新しい活動につながった団体もあり、喜んでいただいている団体もある。今年度の実施結果を注視したい。

(委員長)

様子を見ている団体もある。成果を広めていただきたい。成果がわかることで、次はできるというエンパワーメントが伝わってくる。一緒にやりましょうという意見交換、交流の機会があれば、申請件数も増えると期待する。

- (3) 令和5年度「源氏ろまん2023」(案)について
・事務局より「令和5年度「源氏ろまん2023」(案)について」資料3説明。

(委員長)

令和5年度「源氏ろまん2023」(案)について、意見・質問はあるか。

(委員)

ユース賞は難しい。年齢によって評価が変わるし応募作品数も少ない。公民館サークルのレベルは高い。応募作品数も多い。しかし、若い人が同じ形でやるのは難しい。若い人は行政にやってもらわなくても、すぐに自分で発信する。あまり焦らずに、新しい動きを見ながらやっていかなければならない。

(委員)

2023年の新しい取組はどれになるのか。

(事務局)

新規の取組は「五感で楽しむ古の文化講座」である。

- (4) 紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて

・事務局より「紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて」資料4説明。

(委員長)

紫式部ゆかりのまち宇治魅力発信プロジェクトについて意見・質問はあるか。
最後にイベントカレンダーがあるが、来年の大河ドラマに向けて機運を盛り上げていくのか。

(事務局)

大河ドラマは来年1月から始まるので、それに向けて色々プロモーションを実施していく。今は放映前で、機運を盛り上げていく。放映中も放映後も、宇治市が行ってきた「源氏物語のまち 宇治」を発信していく。

(委員)

大河ドラマで取り上げられたら注目度が高まり、電車が混雑する。駐車場も満車になる状況を、どのように考えているのか。

(事務局)

秋の行楽シーズンやゴールデンウィークは臨時駐車場を設置し対策してきた。年間を通してとなると課題がある。行政としては、公共交通機関の利用をアピールしていく。

- (5) その他

(委員長)

他に意見・質問はあるか。

(委員)

この春からの文化庁京都移転は、何か宇治に影響はあるのか。古典の日も、宇治では古典のこの字もない。

(事務局)

「ハレの日」のチラシを配布している。宇治独自の文化を魅力発信していく。一過性の取組ではなく、一年を通じて府内全体で発信し、つなげていく。その中で宇治市の魅力をPRしていく。

(委員長)

文化観光振興法ができ、文化の振興を観光振興につなげていこうというのが中心で、コロナ後のインバウンド観光は、地域の文化に関心が移っている。宇治市ならではの文化振興や市民文化の充実が、宇治市としての文化発信となり観光につながる。公民館活動が市民文化を培ってきたが、若い人は変わってきている。どういう風にしていくかは、来年の「大河ドラマ」がきっかけになるのかなと思う。

(委員)

鶺鴒の開催が不安定。実施できない日が多い。予約システムがない。インターネットを見て開催状況がわかると、お客様の不安がなくなる。どうにかならないか。

(事務局)

気候、放流量により実施が難しい場合がある。観光協会等が中心となっているので、行政がなかなか介入できないが、保存・継承していかなければならない大事な資源と考えている。

(委員)

若い人への継承というが、宇治に住んでいる小学生は地元のことを知らない。学校で学ばない。学校で経験・勉強すると関心を持ち、若いお父さんお母さんも関心を持たれるようになる。そのためには予算も必要。

(事務局)

小さい頃から文化に触れ、家族で文化の話ができる機会になる。宇治学で「地域を知る」に取り組んでいる。五感で楽しむ古の文化講座には、小学生が親や祖父母と参加された。子供に対する文化の発信は非常に大切。色々な形で検討していく。

(委員)

京都市も、茶道、華道等の芸術文化体験を授業に取り入れている。

(委員)

宇治の中心はどこか。文化の発信拠点はどこか。行政はどのように考えているのか。観光も「茶づな」が出来て分散した感じがする。ちょっとぶれていると思うことが最近多い。若い人にとって宇治市は魅力のないまち。市民文化賞も若い人が応募しないのは魅力がないから。どこかで若者が感じる魅力づくりを考えてほしい。文化の拠点を考えてほしい。資源がいっぱいあるのにもったいない。イベントにしても何にしても、宇治市は格式ばっている感じがする。努力が足りない。また、宇治市は何かあったらボランティアに丸投げする。それでは限界がきていることに気

付いているのではないか。行政が文化に対して、仕掛けていく方法を見つけてくれたら嬉しい。そのためのお手伝いはさせていただく。

(委員長)

委員からは様々な意見があったが、引き続き宇治市の文化振興に向けて取組を進めてもらいたい。円滑で活発な議事進行に感謝する。

4. 閉会